学習内容報告書

学校名	横浜市立　幸ケ谷小学校
授業者	江口　秀暁

1.　単元計画

1-1.　単元名

私たちの知らない　マイクロプラスチックの世界

1-2.　学年

第５学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

昨年度、地域にある施設の干潟や公園にある干潟の生き物について実際にふれながら活動し、都会の海でも多様な生き物がいること、そして自分たちの幸ケ谷の海を守っていきたいと環境を考えた活動を行ってきた。今年度は、世界の海の問題であるマイクロプラスチックを中心とした海のゴミ問題について活動を深めていった。地域の調査を行い、「環境科学研究所」の方の話から現状を知るとともに、「東京湾大感謝祭」、「学習発表会」などの場を生かして、学んだことを発信していった。また、自分たちが実際にできる環境を守る活動を考え、ＰＴＡ作成の運動会（スポーツフェスティバル）参加賞をエコバッグにできないか提案書を作成し、提案した。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

本校は学校全体でESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）に取り組んでいる。主な活動として、『横浜の時間』（総合的な学習の時間+各教科）において、各学年・各学級によりESDの視点を持ったテーマを設けて取り組んでいる。本校学区が横浜の中心部の臨海部にあることから、SDGｓの17の視点のひとつでもある「１４：海の豊かさをまもろう」への関心もあり、全校で海の生き物の多様性や環境をテーマに学習活動を進めていきたい。この活動を通して、近隣の海の環境を入り口に、児童・保護者・地域関係者が望ましい地域社会のイメージを共有し、地域が一体となった海洋教育、ESD推進へとつなげたい。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

幸ケ谷小学校では、「ＥＳＤ教育で身につけたい力」「横浜の教育目標である知徳体公開」「学校目標である自分友達社会の幸せをつくる幸ケ谷っ子」を鑑みて、育みたい資質・態度を小学校６年間で育てていために、系統立てて取り組めるように表を作成している。今回特に意識したことは、つながりを尊重する態度である。世界的なごみ問題が、自分の身近な海とつながっていること、そして、つながっていることで「自分ごと」として取り組んでいくことを大切にして身につけたい力に迫っていくことを目指した。

1-7.　単元の展開（全５０時間）

時数	○学習活動・主な内容	○教師の指導 / ・主な評価 ●外部連携 / ◎使用教材等
3	○昨年の学習を振り返る。 ・地域の幸ケ谷の海で、それぞれのクラスが活動してきたことを紹介し、共有する。 ○自分たちが取り組みたいＳＤＧｓの活動について話し合い、活動を決定する。 ・今年の総合学習で行いたいことをＳＤＧｓの視点から考え、活動を決定する。	◎ＳＤＧｓのデザインマーク ◎図書資料や環境省ＨＰ上のＳＤＧｓについての資料 ○自分たちの学習のつながりを想起するとともに、世界のことと自分たちのことがつながっていくようにＳＤＧｓの視点で、１７のターゲットについて考え、取り組んでいきたいことを整理する。 ・海ごみ問題について既有の知識と共通体験を通して得た気づきの違いや共通点などから、海ごみ問題について関心をもち、現状や未来の展望について考えようとしている。
25	○海ごみ問題について学習し、解決したい課題を設定する。 ・図書資料やインターネット等を使って調べ学習を行う。 ・調べたことを共有し、世界や神奈川県だけでなく地域の幸ケ谷の海でも当てはまるか課題をもつ。 ○環境科学研究所の方から話を聞き、実際に起こっている海ごみの問題、特にマイクロプラスチックの問題について聞き、関心を深める。 ○実際に地域のごみ拾いを行うなかで、幸ヶ谷の海ごみ問題について考えを深める。 ・自分たちの地域のごみを拾うことでごみ問題を自分ごととして実感するとともに、プラごみが多いことに気付く。 ○国土交通省関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所施設内干潟「潮彩の渚」でマイクロプラスチック調査を行う。 ・マイクロプラスチック調査を行い、分類をして結果を考察する。 ・世界の問題であるマイクロプラスチックが、幸ヶ谷の海にもたくさんあることを知り、その課題を発信しようとする意識をもつ。	●横浜市環境科学研究所 ●幸ケ谷小学校共育倶楽部 （地域コーディネーターを中心としたＰＴＡと地域の組織） ●国土交通省関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」 ●いであ ○調べ学習や協力していただいた方々の話から得た知識と、実際の幸ケ谷の海の現状がつながっていくように、比較しながら活動に取り組んでいく。 ・世界的に起きている海の問題や身近な幸ケ谷の海の現状を知るために、目的に応じて、調査方法、記録の仕方などに留意しながらそれらを用いて調べている。

12	○東京湾大感謝祭２０１９ワンダーアクションカフェに出演し、学習したことを発表する。 ○ステップフェスティバル（校内学習発表会）で学習したことを発表する。	●ハマの海を想う会「東京湾大感謝祭２０１９」 ○自分たちがつたえたいことがつたわるようにグループでの考えや疑問を、適宜全体共有しながらまとめるようにする。 ・地域の海のことやそこを住処とする生き物について考え、自分が大切にしたい事実や経験、考えに応じて、取捨選択してまとめたり、伝えたりしようとする。
10	○自分たちにもできることを考え、エコバッグ作成を、幸ケ谷小ＰＴＡに提案する。 ・国語の学習で提案書の書き方を学ぶ。 ・提案理由や提案内容を整理して、自分たちが伝えたいことをまとめる。**【本時】** ・提案書を作成し、幸ケ谷小ＰＴＡに提出する。	●国土交通省関東地方整備局千葉港湾事務所「べいくりん」 ●幸ケ谷小学校ＰＴＡ ◎国語「未来をつくるわたしたち」 ○国語の学習と関連させながら取り組む。 ・世界的な海問題に取り組むために、まず、自分たちの幸ケ谷の海のために取り組むことの大切さに気付き、自分たちができることについて考え実践をしようとしている。

2.　学習活動の実際

2-1.　単元における位置づけ

単元　５０　時間中の　４５　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

エコバッグに入れる色と文字について意見交流することを通して、自分たちが大切にしたいことや、取り組んできたことの価値ついて考えを深める。

2-3.　本時の展開

○主な学習活動 /・反応	○教師の指導・支援 /　・評価の視点（方法）
○本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	○掲示物を見たり、時間配分、学習計画を確認したりして、単元や本時の見通しをもてるようにする。
使ってくれる人が「幸ヶ谷の海を大切にしたい」と思えるように、エコバッグに入れる色と文字を考えよう。	
○グループで大切にしたい色や文字（キーワード）について話し合い、出し合った意見を整理する。 色について ・みんなが見やすいように黒色がいいね。シンプルだよね。 ・きれいな海をイメージした色がいいね。 ・やっぱり青がいいな。 文字について ・いろんな人が見て分かるといいね。 ・外国の人も見た時に分かるようにしたいね。英語も入れるのもいいな。 ・地球の環境を守るために、エコバッグを使うんだよね。 ・幸ケ谷の海を守ることが世界ににつながるんだったよね。	○グループでの話合いが焦点化していくように、共通点や反対の意見などを整理しながら、グループの意見を「まとめる」話合いであることを確認する。 ○話合いの中で自分たちが大切にしたいことが表出されるように、色については、きれいな海について考えたことや自分たちのイメージを大切にして話し合うという視点を明らかにするする。 ○話合いの中で自分たちが大切にしたいことが表出されるように、文字については、活動したことや活動した時に感じたことなどを想起しながら話し合うという視点を明らかにする。
○全体で大切にしたい色や文字（キーワード）について共有し、共通点や相違点などを整理する。 ・幸ケ谷のまちで、このマイバッグを使って買い物をする人がたくさん増えるといいね。 ・「見やすさ」も大切だけど、「自分たちが大切にしたいこと」が込められてるってことも大切だね。 ○本時のリフレクションを行う。 ・考えの大切な部分をまとめることができた。 ・次は、提案書を作ってしっかり伝えたい。	○海を大切にするという視点が明確になるように、共通点を色分けしながら、板書を使って考えを整理できるようにする。 ・「幸ヶ谷の海を大切にしたい」という視点を基にして、色や文字を選んだ理由を明らかにしながら、取捨選択したりまとめたりしている。 （発言・ワークシート）

3.　今回の活動の自己評価

４年生で学習した幸ヶ谷の海の現状を世界と比較しながら取り組むことができた。そのことが、ＳＤＧｓの１７のターゲットという大きな目標を自分事として捉えていくことにつながり、意欲をもって取り組むことができたと考える。また、フィールドワークなどの調査活動だけでなく、地域にある施設との連係や、マイバック作成の提案など、自分たちにできることについて実践的に取り組んでいくことができた。

4.　今後の課題

総合的な学習の時間では、物事を多面的に見る力やよさを見つける力が身についてきたように感じるが、日常生活や、他教科で発揮さらに発揮できるよう総合的・横断的に考えて取り組む必要があると感じた。

また、４年生での海の生き物調査活動など、海での持続可能な活動を続けていくためには、単元の時数を鑑みた計画や夏場の気温の問題など、生き物が活発な時期に適宜、校外活動をするための配慮や工夫が必要だと感じる。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本学習活動が豊かに行えたのは、近隣の各関係施設にご協力をいただけたことが根底にある。各機関にご協力で情報収集、実地体験、発信できたことが子どもの学びに多く寄与したと考える。また、体験的活動が多くなったこともあり、時数を考えて計画的に取り組む人が必要であることも感じた。